

# 歴史探訪

## クラブ! 其の112

### History Inquiry Club



文化財課 ☎23局 3635  
FAX 22局 3811

#### 渥美半島の誇るべき芸術家

#### 宮川春汀

宮川春汀は、明治6（1873）年11月11日、当時の畠村（現福江町）で、父渡辺長治の第四子（三男）として誕生し、守吉と名づけられました。しかし守吉は、家庭の事情により血縁のない宮川家を母とともに継ぐこととなりました。

明治20年に守吉は、宮川家を15歳の若さで相続しましたが、家業を継がず明治23年に画家の道を進むことを決意しました。当時、挿絵画家として有名だった富岡永洗に弟子入り



▲宮川春汀「かるたとり」『有喜世之華』  
明治30(1897)年 田原市博物館蔵

するため、家の財産を整理して上京します。明治25年、『風俗画報』5月号に蓬斎宮川洗圭の名でデビューし、「摘草」と題する絵が掲載されました。その後、明治28年には雅号を宮川春汀としました。  
明治38年1月から、博文館の『文芸倶楽部』の挿絵担当として毎号作品が掲載され、文芸や歴史、趣味だけでなく、教科書、新聞などの出版物にも多くの作品が掲載されました。当時の売れっ子挿絵画家となった春汀は、太田玉茗、柳田（当時は松岡）国男、田山花袋、国木田独步、泉鏡花など多くの文人たちと交友を深めました。文人たちと集

まるたび、春汀は故郷の伊良湖岬への思いを語ったといえます。明治31年の7月から9月にかけて、影響を受けた柳田国男や田山花袋、太田玉茗が、相次いで伊良湖を訪れています。ご存知「椰子の実」の歌の作詞者である島崎藤村は、柳田国男からそのヒントを得て作詞したそうですが、春汀なくしてこの名曲は誕生しなかったことでしょう。  
春汀は、挿絵や表紙絵、口絵のほか錦絵制作でも評価を得ています。代表作に「子供風俗」「美人十二か月」などがあります。そんな春汀も、展覧会作家の仲間入りを目指していましたが、大正3年7月26日に42歳の若

さでこの世を去りました。

春汀の仕事は、たかが挿絵画家と  
思う方がいるかもしれませんが。事実、  
挿絵や口絵、装幀の絵は、美術の扱  
いがされていませんでした。しかし  
挿絵は、完結した美しさではなく、  
小説作品などの世界を共有し、その  
美しさを表現していました。本は文  
字だけではないという、日本的な独  
自の感性の芸術だと思います。大衆  
に、文学や美術が急速に浸透した文  
化の担い手として挿絵作品は評価す  
べきでしょう。春汀のように、大衆  
に愛された美術を制作したもので、  
真の美術家だと思ふのです。

（増山）

※田原市博物館で、8月28日(土)〜10月17日(日)に宮川春汀の展覧会を開催しますのでぜひご覧ください。

#### 今月の「表紙」

▼田原市の年間日照時間は県内一。やまぶき色に輝くイエローキングは、まさに太陽の恵みそのものです。一つずつ丁寧に箱に詰めていく出荷風景を、ファインダー越しに見て気が付きました。甘さの秘訣は太陽の恵みだけでなく、生産農家さんから注がれた、たっぷりの愛情だったのですね。(O)

【表紙の写真】イエローキングの出荷風景(東神戸町)